

中國內蒙古自治區文物考古研究所
日本幼學會

和林格爾漢墓壁畫孝子傳圖輯錄

二〇〇六・二〇〇八年度日本科學研究會資助項目

陳永志
黑田彰

主編

文物出版社

15879.412
20103

中國內蒙古自治區文物考古研究所
日本幼學會

二〇〇六—二〇〇八年度日本科學研究會資助項目

和林格爾漢墓壁畫孝子傳圖輯錄



陳永志
黑田彰

主編

文物出版社

裝幀設計／孫玲
責任印製／張道奇
責任編輯／李颺

圖書在版編目(CIP)數據

和林格爾漢墓壁畫孝子傳圖輯錄／陳永志，黑田 彰

主編．—北京：文物出版社，2009.11

ISBN 978-7-5010-2878-8

I. ① 和… II. ①陳…②黑… III. ①漢墓—墓室壁畫
—美術考古—和林格爾縣 IV. ①K879.41

中國版本圖書館CIP數據核字(2009)第196266號

和林格爾漢墓壁畫孝子傳圖輯錄

中國內蒙古自治區文物考古研究所
日本幼學會

陳永志 主編
黑田 彰

文物出版社出版發行

北京市東直門內北小街二號樓

<http://www.wenwu.com>

E-mail: web@wenwu.com

北京聖彩虹製版印刷技術有限公司製版印刷

二〇〇九年十一月第一版

二〇〇九年十一月第一次印刷

定價：四九八圓

889×1194 1/8 印張：28

ISBN 978-7-5010-2878-8

前言

和林格爾東漢壁畫墓，是中國的重大考古發現。在墓中發現的壁畫總面積達一百餘平方米，計有五十六組，五十七個畫面，榜題二百五十條，壁畫着重表現的是墓主人一生的主要經歷，同時還描繪了與之有關的出行、幕府、莊園生活、忠義節孝、經史故事以及讖緯祥瑞等內容。壁畫保存完好，畫幅巨大，內容豐富，畫面形象生動，是目前發現的唯一真實展現漢代孝子傳、列女傳、聖賢故事等內容的壁畫，是世界性文化遺產，對於研究東漢時期的莊園制度具有非常重要的意義。

和林格爾東漢墓壁畫最爲突出、詳細的畫面是孝子傳圖和列女傳圖。在中室南壁、北壁、西壁較爲詳細地描繪有孝子傳圖、孔子弟子圖以及列女傳圖、列士圖等人物故事圖，共有九十多幅，並標以榜題。主要有『舜』、『董永』、『老萊子』、『棄母姜嫄』、『契母簡狄』、『秦穆公姬』、『老子、項橐、孔子』等內容。這是中國忠義節孝、聖賢列士傳統文化思想最爲詳細的形象體現，集中反映了東漢時期儒家學說在當時社會上的重要影響。一九七八年六月出版的《和林格爾漢墓壁畫》一書，雖然也較爲詳盡地刊佈了壁畫的主要內容，但囿於當時的研究條件與出版限制，還是遺漏了壁畫當中的一些重要細節，書中對於一些畫面的考釋籠統且不全面。有鑒於此，中國內蒙古自治區文物考古研究所與日本幼學會聯袂再次對和林格爾東漢墓壁畫資料進行了細緻的整理，對於壁畫中的一些內容再度進行考釋，同時對於壁畫的其他內容也

進行了補充刊佈，形成了這本《和林格爾漢墓壁畫孝子傳圖輯錄》。

《和林格爾漢墓壁畫孝子傳圖輯錄》是第一部系統研究漢代壁畫孝梯內容的專著，本書對於漢墓壁畫中的孝子傳圖、列女傳圖、列士圖、孔子弟子圖等內容進行了詳盡的考釋，同時對壁畫的全部內容進行了系統的分類，主次分明地將壁畫展示出來，這對於中國漢文化的研究將是一個巨大的推動，它的付梓，無疑將填補中國漢代壁畫孝子傳圖、列女傳圖研究的空白。本書是二〇〇六—二〇〇八年度日本科學研究會資助項目成果，中方研究項目實施的主體是中國內蒙古自治區文物考古研究所，陳永志教授爲該項目的具體任務執行和負責人；日方研究專案實施的主體是日本幼學會，日本佛教大學黑田彰教授爲具體任務執行和負責人。中國內蒙古自治區文物考古研究所宋國棟、李強先生，日本成城大學後藤昭雄先生、梅花女子大學三木雅博先生、國文學研究資料館山崎誠先生、愛知文教大學陳齡女士、佛教大學非常勤講師坪井直子女士參與了該專案的資料整理工作。在此衷心地感謝給予該專案支持與幫助的各位同仁學者。

編者

二〇〇九年二月十七日

前言

和林格爾後漢墓壁畫は、中国の考古学における重要な発見である。墓中から発見された壁画は、総面積が一百余平方メートルに及ぶもので、五十六組、五十七画面を有し、榜題は二百五十条を数える。壁画には、墓主の一生の主要な経歴を中心に、それをめぐって、墓主の出行、幕府、庄園生活、孝行・貞節・忠義・聖賢・歴史故事、識緯・祥瑞等の内容が描かれている。壁画は当時の姿をよく留めており、画幅は巨大、内容も豊富で、画面の形象は生彩に富む。この壁画墓は、漢代の孝子伝、列女伝、聖賢故事等の内容を、私達の眼前にそのまま展開させる唯一の世界的文化遺産であり、その発見は、後漢の庄園制度の研究において、非常に重要な意義を有する。

和林格爾後漢墓壁画で最も抜きん出て詳細に描かれるのは、孝子伝図、列女伝図である。中室南壁、北壁、西壁に比較的詳細に描かれた孝子伝図、孔子弟子図、列女伝図、列士図等の故事図は、合わせて九十幅を超え、さらにそれらが榜題を以て標示される。主要なもの上げるならば、「舜」「董永」「老萊子」「棄母姜嫄」「契母簡狄」「秦穆公姬」「老子、項橐、孔子」などである。これらは中国の忠孝節義、聖賢列士といった伝統ある文化、思想を、非常に詳細に、形象、具現化しており、後漢の社会に深い影響を与えた、当時の儒家の学説が凝縮、反映されている。一九七八年六月に出版された『和林格爾漢墓壁画』は、壁画の主要な内容を、比較的詳しく掲載しているが、当時の研究条件と出版には制約があったし、また、壁画中の幾つかの細かな重要点が漏れたり、解説の幾つかの画面の考察が大まかで部分的である。これらの点に鑑み、中国の内蒙古文物考古研究所と日本の幼学の会は、和林格爾漢墓壁画について、共同研究を行うこととし、改めて資料の詳しい整理を進め、壁画中の幾つかの内容を再検討

した。そして、壁画のその他の内容を補足、刊行することにして、この『和林格爾漢墓壁画孝子伝図輯録』を編んだ。

『和林格爾漢墓壁画孝子伝図輯録』は、漢代壁画の孝悌に関する内容を、系統的に研究する国内外で初めての専門書である。本書は、漢墓壁画中の孝子伝図、列女伝図、列士図、孔子弟子図等の内容について、詳細な検討を行うと同時に、全壁画の内容に対し、系統的な分類を進め、主として図像の順序が明確となるように壁画を示した。中国文化の研究において、これは正に一つの大きな進展であり、その上梓は間違いなく中国漢代壁画の孝子伝図、列女伝図研究の空白を補填するものであろう。本書は、二〇〇六—二〇〇八年度科学研究費補助金基盤研究(B)による成果である。中国と日本で実施した共同研究において、中国側の研究主体者は内蒙古自治区文物考古研究所であり、陳永志教授がこの研究の具体的な任務と責任を負う。日本側の研究主体者は幼学の会であり、佛教大学黒田彰教授がその任務と責任を負う。また、この共同研究の資料整理には、内蒙古自治区文物考古研究所宋国棟先生・李強先生・日本の成城大学後藤昭雄先生・梅花女子大学三木雅博先生・国文学研究資料館山崎誠先生・愛知文教大学陳齡女史・佛教大学非常勤講師坪井直子女史が参画した。ここに、この研究に御支持と御助力を賜った関係各位に衷心より感謝を申し上げたい。

編者

二〇〇九年二月十七日

和林格爾漢墓壁畫

中國內蒙古自治區文物考古研究所 陳永志

一九七一年九月的某一天，和林格爾縣新店子公社小板申村的社員們在修造梯田時，偶然發現了一座大型的漢代磚室墓。值得驚嘆的是在這座墓葬的墓壁及甬道兩側繪滿了顏色鮮艷的壁畫，畫幅巨大，內容豐富，畫面內容形象生動，這是中華人民共和國成立以來在內蒙古自治區發現的最為重要的東漢時期的壁畫墓，它的發現對於研究東漢時期的莊園制度具有非常重要的意義，由此被評為『七五』期間中國的重大考古發現之一。

這座漢墓位於黃河最大的支流紅河北岸的一處高地上，高地兩側有對稱的雙翼形山崗，有如展翅飛翔的鳳凰，鳳頭前伸入河床正好與河對岸凸起的黑紅色山崗相對，地理位置十分顯赫。古墓全長19.85米，由墓道、墓門、前室、中室、後室及三個耳室組成，平面呈雙十字形，墓室以青灰色條磚平砌成穹廬頂，墓高3.61米，前、中、後室皆以方磚鋪地，磚面書寫有『子孫繁昌，富樂未央』八個字。這座墓葬早年被盜，在前室券頂有大型盜洞一個，墓內隨葬品大部分被盜，餘下已成碎片，棺木焚毀，尸骨僅存牙齒、椎骨、臂骨等，從破碎的陶器殘片中整理出土罐、鼎、案、尊、耳杯等文物共十一件，並出土有殘銅鏡一件，鐵器七件，漆器殘片若干。

此次發掘最重要的收穫是在墓壁上發現了大面積的壁畫，計有五十六組，五十七個畫面，榜題二百五十條，總面積有一百餘平方米，全部壁畫是一個相互聯繫的整體，着重表現的是墓主人一生的主要經歷，圍繞着墓主人主要的仕階畫面，還描繪了與之有關的出行、幕府、人物故事、莊園生活、經史故事、忠孝祥瑞等內容。前室主要描繪墓主人從『舉孝廉』、『郎』、『西河長史』、『行上郡屬國都尉時』、『繁陽令』到『使持節護烏桓校尉』的做官經歷。墓主人舉孝廉出行場面為乘軺車，從騎，主車上方榜題『舉孝廉時』。孝廉為東漢時做官晉升的第一個臺階，由當地郡吏選拔，能够被舉之人都是豪強大族出身，具有一定的社會地位，當時曾流傳有『舉秀才，不知書，察孝廉，父別居』的歌

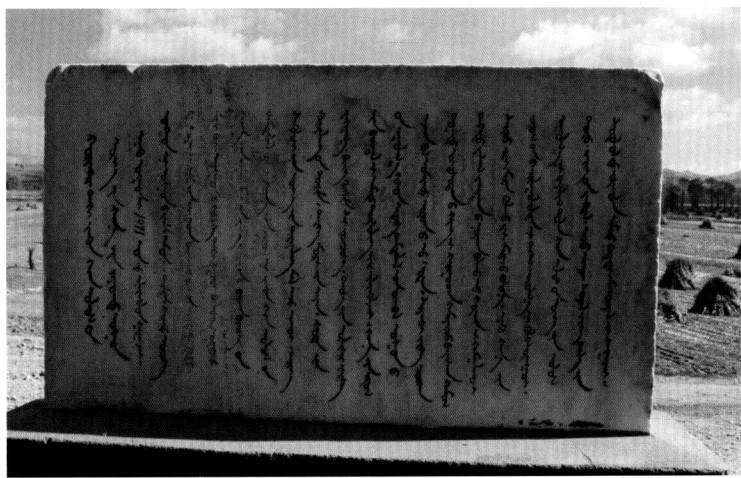


圖一 和林格爾漢墓工作站

謠，是對當時察舉制度的諷刺。西壁中層的中部畫有黑蓋軺車七輛，主車旁榜題『郎』字，兩旁有護騎，表明墓主人舉孝廉之後即為『郎』職。『郎』即『郎中』，是東漢時期的朝官，是一種無具體職責、無官署、無員額限制的特殊官職，品秩三百石。西壁中層左上方畫『西河長史』出行場面，從騎簇擁主車，且行且獵。漢制，郡守之下即是長史，實際上是兼郡丞與都尉兩職的實權人物。前室南壁中層往左，是『屬國都尉出行』圖，主車周圍有眾多武官、武士相隨，左右點綴有狩獵場面。『屬國』為郡級行政單位，主要職能是管轄境內的少數民族，屬國都尉秩比兩千石。中室東壁中層即是墓主人任繁陽縣令時所居府舍圖。繁陽縣治設有子城，城牆高大，內設重櫓倉樓，榜題有『繁陽縣令官寺』等字。中室甬道券門上方，描繪的是墓主人赴寧城縣(上穀郡)就任護烏桓校尉時途經居庸關的場景，墓主人的車騎途經一平頂橋，橋下水頭之上榜題『居庸關』三字，橋上車騎之上榜題『使君從繁陽遷度關時』等字，這是有關現在居庸關情況的最早記述。再繞回前室中層，橫跨東北西三面墓壁即是護烏桓校尉出行圖。墓主人所乘軺車，駕三匹黑馬，榜題『使持節護烏桓校尉』等字，主車前後有鼓車、斧車，層層環護眾多武官、兵丁，隨從有『別駕從事』、『功曹從事』、『校尉行部』等下屬官職，連車列騎，旗旌飄揚，場面極為壯觀。中室東壁下半部描繪的是寧城圖與護烏桓校尉幕府圖。寧城圖畫有城垣、城門、衙署等內容，其中寧城南門外武士持戟列隊，身着胡服的少數民族人物徐徐入內的場景最為突出。占據主畫面的是護烏桓校尉幕府圖，由於任護烏桓校尉官職是墓主人一生中最值得炫耀的經歷，所以，此圖描繪得最為詳細誇張，是整個壁畫中的核心部分。整個幕府分為堂院、營舍和庖舍三個部分，堂屋為高大的廡殿式房屋，墓主人端坐堂上，堂下藝人在表演樂舞雜耍，少數民族人物伏拜觀見，周圍環立官吏武士，場面喧囂隆重。營舍位於幕府後院，是幕府中管理軍務的機構所在，庖舍位於幕府的西南角，掌管幕府廚飲之事。



圖二 和林格爾漢墓保護標誌碑



圖四 和林格爾漢墓保護標誌碑



圖三 和林格爾漢墓保護標誌碑

在中室南壁、北壁、西壁描繪有聖賢、忠臣、孝子、勇士、列女等人物故事，共八十多則，以榜題形式明確標示的有：『晏子二桃殺三士』、『伍子胥逃國』、『孟賁、王慶忌、魯漆室女、魯義姑姊』、『后稷母姜嫄』、『契母簡狄』、『周室三母』等等，除此以外，還畫有『青龍』、『朱雀』、『玄武』、『靈龜』、『白狼』、『白鶴』、『玉馬』等瑞獸圖，這些圖案周

圍，還點綴有祥雲星月，使整個墓室充滿了濃郁神秘的神學氣氛。與識緯內容相呼應的是儒學教育畫面的出現。中室壁畫的中層繪有學堂，堂內經師端坐在方榻之上，邊側榜題有『使君少授諸先時舍』等字，堂內堂外聽經學生恭敬肅立，以示『弟子彌衆』。在這些表示精神思想內容的畫面以外，最為突出的是娛樂內容的出現，在中室北壁繪有宏大的樂舞百戲場面，內容有飛彈、飛劍、舞輪、倒立、對舞等雜技項目，其中最為精彩的是儻技表演，一人仰臥在地上，手擎樟木，樟頭安橫木，橫木兩端各一人作反弓倒掛狀，這就是雜技裏最驚險的『跟掛倒投』動作，所有表演者均是赤膊、束髻，肩臂纏繞紅色飄帶，人物造型矯健優美。這組畫面完整真實地向人們展示了中國雜技發展的歷史狀況，與東漢張衡《西京賦》中對當時樂舞百戲的描寫正好吻合，說明東漢時期雜技藝術已經是扎根於民間，在民族文化交流與融合方面起到了重要的作用。

後室南壁描繪的是一幅莊園圖。莊園羣山綠樹環抱，塢堡、廊舍、欄圈、桑園、池塘、園圃以及馬、牛、羊、猪等家畜無一不有，展示了一幅活生生的莊園生活畫面。『二牛抬杠』的牛耕場面，說明在漢代這種先進的耕作方法已經推廣到了內蒙古北方草原地區；『厨炊圖』中的釀造場景，證實了《四民月令》中記載的製酒、醬、醋的事實；《桑麻圖》中的女子採桑、溫麻場景，是《漢書·食貨志》中記載的『還廬樹桑』情景的再現；《牧馬圖》、《牧牛圖》、《牧羊圖》及《漁獵圖》的出現，是大地主莊園自給自足經濟生活方式的真實體現；『寧市』圖中圍牆式交易市場的畫面，展現了中國北方草原地區各民族之間經濟貿易往來的繁榮景象；中室西北壁的『燕居』圖，後室北壁的『武城』圖，描繪的是墓主人晚年養尊處優的生活場面，圖中墓主人夫婦周圍僕簇立，墓主人居室內外金玉滿堂、鷄魚滿倉，淋漓地展示了墓主人窮奢極欲的生活場景，正如漢樂府詩《相逢行》中所言：『黃金為君門，白玉為君堂，堂上置樽酒，作使邯鄲倡；中廳生桂樹，華燈何煌煌。』



圖五 和林格爾漢墓墓冢

由上述豐富多彩、精美絕倫的壁畫聯想到了墓主人，這座裝飾豪華的墓葬的主人究竟是歷史上的甚麼人物，一時成為後人猜測的難題。由於墓葬早年被盜掘，隨葬品被擾亂，也未留下墓誌，墓內壁畫中榜題『使持節護烏桓校尉』便成了唯一的線索。『使持節護烏桓校尉』是漢武帝為抵抗匈奴的侵擾而在北部邊疆地區設立的官職，主要職責是統轄位於匈奴南端的烏桓、鮮卑族。新莽時，將護烏桓校尉改為『護烏桓使者』，東漢建武二十五年，復置護烏桓校尉於上穀郡寧城縣，營建幕府，管理邊境地區的烏桓、鮮卑民族，同時兼管朝廷的賞賜、質子、互市等事宜。後經三國、魏晉，此官職一直未有變動。根據相關史籍記載，公元一四〇年，第一任護烏桓校尉王元以後，到公元一九五年閻柔殺護烏桓校尉邢舉而代之，數任護烏桓校尉都與墓主人的經歷不符，那麼，這個在內蒙古地區土生土長的護烏桓校尉的真實身份也便成了千古之謎，任人猜測與遐想。

和林格爾漢墓壁畫以它廣泛多樣的題材、豐富翔實的內容、嫺熟高超的繪畫技術，向我們展示了一幅東漢晚期內蒙古地區的人文地理風貌，壁畫所承載的歷史信息是異常豐富的，是我們研究東漢時期政治、經濟、文化、藝術的珍貴實物資料。古人視死如視生，和林格爾漢墓墓主人對『生』的祈求與向往，導致了在自己的墳墓中再造逝去生活場景的壯舉，從而也有了我們今天的發現，這實在是一件幸事。

和林格爾漢墓の壁画

中国内蒙古自治区文物考古研究所 陳永志 坪井 直子訳

一九七一年九月の或る日、和林格爾県新店子人民公社小板申村の村民達が、段々畑を修理していた時に、大型の漢代磚室墓を偶然発見した。驚嘆に値するのは、この墓の墓室や甬道両側の壁画が、色鮮やかな美しい壁画で満ち溢れていたことで、画幅はとても広く、内容が豊富で、画面の図像は生き生きとしていた。これは、「中華人民共和国の」建国以来、我が地区で発見された最も重要な後漢時代の壁画墓であり、その発見は、後漢の庄园制度の研究において、非常に重要な意義を有する。このため、第七次五年計画（一九八六年～一九九〇年）における我が国の重要な考古学上の発見の一つとして評価されている。

この漢墓は、黄河最大の支流である紅河の北岸の高地に位置する。高地の両側は、左右対称の双翼状の丘となっていて、翼を広げて飛翔する鳳凰のようである。鳳凰の頭部は前の河床に伸びて、正に河の対岸の隆起した黒紅色の丘と相対しており、地勢が非常に素晴らしい。古墓の全長は一九・八五メートルで、墓道、墓門、前室、中室、後室及び、三つの耳室によって構成され、平面上では、双十字形を呈する。墓室は、青灰色の細長い煉瓦が平らに積み上げられて、ドーム状の天井を形成し、高さは三・六～四メートルである。前、中、後室全てに、正方形の煉瓦が敷かれ、磚面には「子孫繁昌、富樂未央」の八字が刻印されていた。この葬墓は、早くに盗掘に遭い、前室の天井アーチに大きな盗掘穴が一つ空いている。墓内の副葬品の大部分は盗まれ、残りは既に破片となっていたし、また、棺は焼かれて壊され、人骨は歯、背骨、腕骨などが僅かに残る程度であった。破砕した陶器の残片を整理して得られた缶、鼎、尊、案、耳杯などの遺物七一点と共に、欠けた銅鏡一面、鉄器七点、漆器の残片若干が出土している。

この発掘で最も重要な成果は、墓室の壁面上に、広大な面積の壁画が発見されたことで、壁画が五六組五七画面、榜題は二五〇条を数え、総面積が一百余平方メートルある。全ての壁画が、相互に関連し、全体を形成している。重点的に表現されるのは、墓主の一生における主な経歴で、墓主の主要な官歴を描く画面を中心として、それと関わる出行、幕府、墓主の物語、庄园生活、聖賢・歴史故事、忠孝・祥瑞の内容が描かれている。前室は主に、「挙孝廉」から始めて「郎」、「西河長史」、「行上郡属国都尉時」、「繁陽令」そして、「使持節護烏桓校尉」に至る、墓主の官歴を描く。墓主は、孝廉に挙げられて出行する場面では、馬車に乗っており、從騎や、墓主の車の上方に、榜題「挙孝廉時」が記される。孝廉は、後漢時代において、官職登用のための第一段階であり、その地方の郡吏によって選抜されたが、推挙の対象となることが出来た者は皆、強大な豪族出身で、一定の社会的地位を有していた。その当時広く流布した歌謡

に、「挙秀才、不知書、察孝廉、父別居」というものがある。これは、当時の察舉制度に対する風刺である。西壁中層の中央には、車蓋の黒い馬車七台が描かれる。墓主の車の傍らに榜題「郎」があり、両側に護衛の騎者がいて、墓主が孝廉に推挙された後、正に「郎」の職に就いたことを表わしている。「郎」は、即ち、「郎中」で、後漢の宮中の宿直官である。具体的な職責が無い官の一種であり、官署がなく、定員制限も無い特殊な官職で、等級は三百石であった。西壁中層の左上方には、「西河長史」の出行場面が描かれ、主人の車を從騎が大勢取り囲み、狩りをしながら行進している。漢制では、郡守の下が即ち、長史で、郡丞と都尉の二つの官職を兼ね、事実上、権力を握る人物であった。前室南壁中層には、左に向かう「属国都尉出行」図がある。墓主の車の周囲を多くの武官や武士が随行し、左右を狩獵場面が飾る。「属国」は郡級の行政単位で、主要な職能は、域内の少数民族を管轄することであり、属国都尉の秩禄は二千石に当たっている。中室東壁中層は即ち、墓主が繁陽県令の任にあった時に居た府舎の図である。繁陽の役所は子城であり、城壁は高く大きく、内に二重ひさしの倉庫を設けていて、榜題には、「繁陽県令官寺」などがある。中室の甬道入口の上方は、墓主が寧城県（上谷郡）に赴いて、護烏桓校尉に就任した時の、居庸関を通ってゆく光景を描いており、墓主の車騎が、上が平らになった橋を渡って行く。橋下にある勢いよく流れる水の上の榜題に、「居庸関」の三字、橋上にある車騎の上の榜題に、「使君從繁陽遷度関時」などの字がある。これは、現在、居庸関の状況を述べた最古の記述である。再び前室中層に戻れば、東北西の墓壁三面を横断するのが即ち、護烏桓校尉出行図である。墓主の乗る馬車は、三頭の黒馬によって引かれ、榜題に「使持節護烏桓校尉」などの字がある。墓主の車の前後には、鼓車、斧車があり、多くの武官、兵丁が幾重にもなって周りを護衛する。随行するのは、「別駕從事」「功曹從事」「校尉行部」などの下級官吏で、馬車や騎者が列を連ね、旌旗が風に翻って、場面は極めて壮観である。中室東壁の下部に描かれるのは、寧城図と護烏桓校尉幕府図である。寧城図は、城壁、城門、衙署などの内容を描くが、その中で最も突出しているのは、寧城南門の外で、武士が戟を持って隊列をなし、胡服を身に着けた少数民族の人々がゆっくりと入城してくる光景である。主な画面を占有するのは、護烏桓校尉幕府図で、護烏桓校尉の官職に任じられたことが、墓主の一生の中で、最も輝かしい経歴であるため、この図は最も詳細且つ、誇張して描かれ、壁画全体の中核部分となっている。幕府全体は、堂院、営舎、庖舎の三つの部分に分かれる。堂は、高くて大きい廡殿式（寄棟造）の建物で、墓主が堂上に端座し、堂下では芸人が樂舞雜技を演じたり、少数民族が伏して拝謁したりして、その周囲を官吏

や武士が立つて取り囲む。その場面は喧噪に包まれ、盛大且つ、莊重である。営舎は、幕府の後院に位置する。これは、幕府の軍部組織を管理する所である。庖舎は、幕府の西南の角に位置し、幕府の炊事を管理する。

後室南壁に描かれるのは、一幅の庄園図である。庄園の山々や緑の木々が、塙堡、廊下で繋がった建物、家畜を囲う柵や家畜小屋、桑園、池塘、田畑及び、馬、牛、羊、豚などの家畜全てを取り囲み、一幅の生き生きとした庄園生活の画面が示されている。

「牛二頭が鋤を引く」牛耕場面は、漢代において、この種の先進的な耕作方法が、既に内蒙古北方の草原地区まで普及していた事実を物語る。廚炊図の中の釀造光景は、『四民月令』中に記載がある酒、味噌、酢の製造が、事実であることを証明する。桑麻図中の女性が桑を採り、麻を水に浸す光景は、『漢書食貨志』中に記載される「還廬樹桑」の光景を再現する。牧馬図、牧牛図、牧羊図及び、漁獵図が表現されていることは、大地主の庄園が、自給自足の経済生活方式であったことを如実に表わしている。「寧市」



図一 和林格爾漢墓墓門



図二 和林格爾漢墓周圍環境

図中の周囲を塙で囲まれた交易市場の画面は、中国北方草原地区の各民族間の経済貿易における往来が繁栄していた光景を展開する。中室西北壁の「燕居」図、後室北壁の「武城」図に描かれるのは、墓主晩年の優雅な生活場面、図中の墓主夫妻の周囲には、男女の侍者の一群が立ち、墓主の部屋の内外では、金や玉が堂に、鶏や魚が倉に満ちていて、墓主の贅沢の限りを尽くした生活の光景が、のびやかに示される。正に、漢代の楽府『相逢行』中に言う所の、「黄金為君門、白玉為君堂。堂上置樽酒、作使郎郾倡。中牀生桂樹、華灯何煌煌」の如くである。

中室南壁、北壁、西壁に描かれるのは、聖賢、忠臣、孝子、勇士、烈女などの人物故事で、合わせて八〇余あり、榜題によって明確に標示する。「晏子二桃殺三士」「伍子胥逃国」「孟賁」「王慶忌」「魯漆室女」「魯義姑姉」「后稷母姜嫄」「契母簡狄」「周室三母」等々があり、これら以外に、「青竜」「朱雀」「玄武」「靈龜」「白狼」「白鶴」「玉馬」などの瑞獣の図も描く。これらの図案の周囲にはまた、瑞祥の雲、星、月が配され、全ての墓室が濃厚な神秘的宗教の雰囲気満ちていた。識緯思想的な内容と相呼応するのが、儒学教育を表わした画面である。中室の壁画の中層には、学堂が描かれ、堂内には儒学の講師が方形の床に端座し、その傍らの榜題に「使君少授諸先

時舎」などの字がある。堂内や堂外で経学を受講している学生は、恭しくも礼儀正しく起立し、「弟子弥衆」として示される。これらの精神思想の内容を示す画面のほかに、最も傑出しているのは、娯楽の場面の表現である。中室北壁に描かれるのは、壮大な樂舞百戯の場面で、球投げ、劍投げ、輪舞、倒立、二人の舞などの雜伎の演目が見える。それらの中で最も精彩を放つのが、竿を使用する演技で、一人が地面に仰向けに寝て、手で竿を持ち上げている。竿の先には横木が取り付けられ、横木の両端に、それぞれ一人が、弓反りになって逆さまに引つ掛かる形をつくる。これは、雜技の中で正しく、最も危険で驚くべき、「踵で引つ掛かり逆さまになって投げる」動作である。全ての演者が皆、上半身裸で、髻を結び、肩や腕に赤色のひらひらとした領布を巻き付けていて、人物の造型が力強く優美である。この一揃いの画面は、中国雜伎の歴史的発展の様相を、極めて具体的且つ、完全に人々に示しており、後漢、張衡の『西京賦』中の当時の樂舞百戯についての描写とも正に合致する。後漢の時代に、雜技芸術が、既に民間に根を下ろし、民族文化の交流と融合の面で、重要な役割を果たしていたことを物語っているのである。

上述した、豊富多彩でこの上なく精美的な壁画から、墓主が連想され、この豪華な裝飾墓の主人が、一体、歴史上のどのような人物であったかの推定が、しばらく、後代の人々の取り組む難題となった。早くに葬墓が盗掘されたため、副葬品が乱され、墓誌も遺っていないだったので、墓内の壁画中にある榜題「使持節護烏桓校尉」がその唯一の手掛かりとなった。「使持節護烏桓校尉」は、漢の武帝が匈奴の侵攻に抵抗するため、北部の辺境地域に設置した官職で、主な職責は、匈奴の南端に位置する烏桓、鮮卑族を統括することであった。王莽の新時代に、護烏桓校尉を改めて、「護烏桓使者」としたが、後漢の建武二十五年、再び護烏桓校尉を上谷郡寧城県に置き、役所を造営して、辺境地域の烏桓、鮮卑族を管理すると同時に、朝廷の賞賜や人質、外国貿易などの件も併せて管理した。その後、三国、魏晉を通じて、この官職はずっと変更がなかった。関連の史書の記載に基づくならば、西暦一四〇年に、第一の護烏桓校尉に王元が任じられて以後、西暦一九五年に閻柔が護烏桓校尉邢挙を殺してそれに代わるまで、幾人かが護烏桓校尉に任じられたが、いずれもこの墓主の経歴とは一致しない。従って、この内蒙古地区に生まれ育った護烏桓校尉の眞の身分もまた、千古の謎となり、人の推理や夢想にゆだねられたのである。

和林格爾漢墓壁画は、その広範で多様な題材、豊富で精確な内容、熟練した卓抜な絵画技術によって、一幅の後漢晩期の内蒙古地区の人文地理的な風貌を、我々に示してきた。壁画が包摂する重要な歴史の消息は、極めて豊かで、我々の研究する後漢時代の政治、経済、文化、芸術の貴重な実物資料である。古人は、生を視るように、死を視ていた。和林格爾漢墓の墓主の、生に対する祈求と憧憬は、自己の墳墓の内に、過ぎ去りし生活の光景を再現するという壮大な行為を導いた。そして、それによって、我々の今日の発見もあったのだ。このことは、実に一つの幸運な出来事である。

和林格爾東漢壁畫墓裡的孝子傳圖、孔子弟子圖以及列女傳圖、列士圖

黑田 彰 陳齡 譯

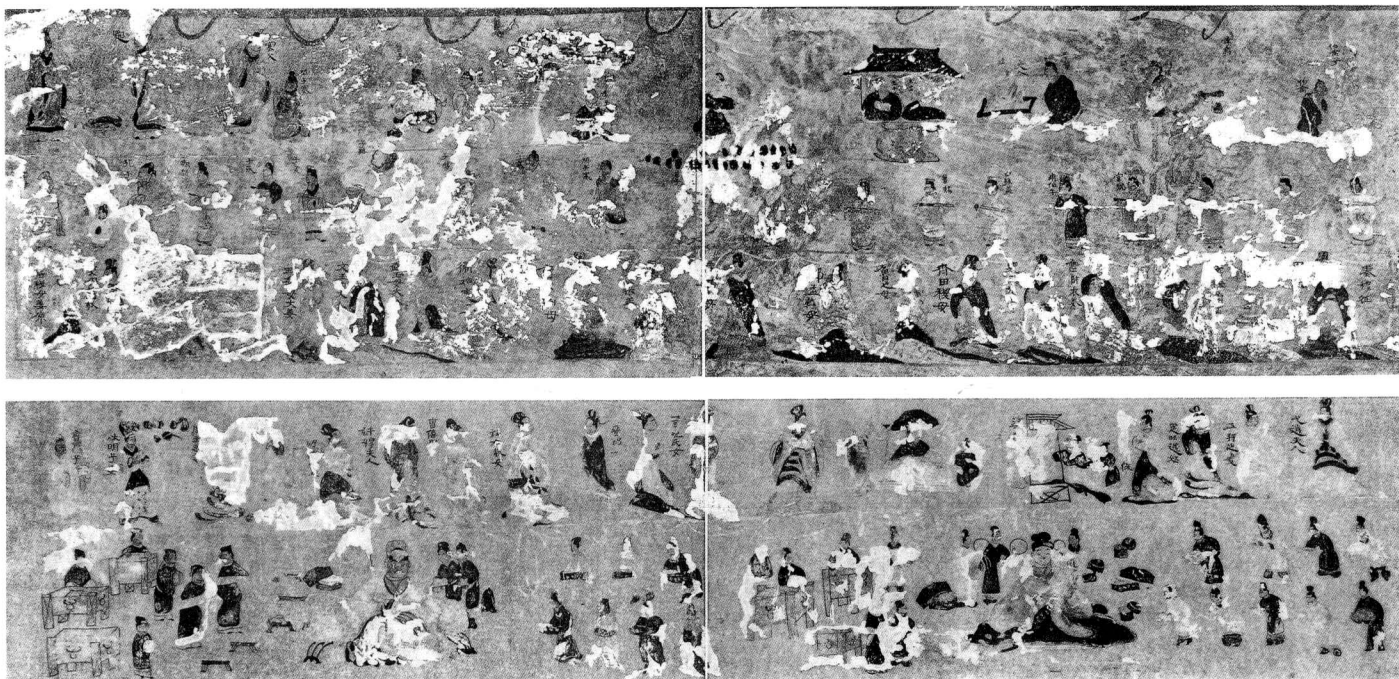
一

一九七八年由文物出版社刊行，後又於二〇〇七年再刊的《和林格爾東漢墓壁畫》一書，不僅是當時最爲出色的報告書^①，就是在今天看來也具有很高的學術價值（以下通稱文物出版社版）。文物出版社版網羅了此墓發掘時的最基本、最重要的資料信息，可以說是一部必讀的文獻。但遺憾的是和林格爾東漢壁畫墓中室所繪孝子傳圖、孔子弟子圖、列女傳圖、列士圖雖然已經被收錄在文物出版社版的《歷史人物、燕居》的摹寫圖（第138、139頁〈再版140、141頁〉）裡，成爲衆所周知的事實，但是這部書裡卻缺乏有關內容的詳細記載。考慮到當時的情形，這或許是無奈之舉。日本幼學會出於對上述情況的憂慮，經多次聯繫磋商，中國和日本的合作研究終於提上日程，並且在內蒙古自治區文物考古研究所和幼學會的共同努力下，最終得以將此研究報告編輯成書。本報告書在此就和林格爾東漢壁畫墓中室的孝子傳圖（圖版壹一、1-14）、孔子弟子圖（圖版壹二、1-13）、列女傳圖（圖版壹三、1-27）以及列士圖（圖版壹四、1-8）的內容作一些介紹與論述。首先圖一揭示了該墓西、北壁的摹寫圖^②。圖一左爲西壁，右爲北壁，第一層爲孝子傳圖，第二層爲孔子弟子圖，第三、四層爲列女傳圖，第五層則爲男性墓主（西壁）、女性墓主（北壁）等圖像。而該墓的北壁右側部分均未收入本圖。

中室西、北壁第一層繪有孝子傳圖（圖版壹一、1-14）。值得一提的是漢代孝子傳圖裡的榜題至關重要，它是解讀圖像內容的首要依據。

中室西、北壁第一層從當時出土的情況來看，保存尚屬完好，孝子傳圖的榜題也比較清晰。在此將第一層所示孝子傳圖的榜題表示如下（括號內標注了日本現存的陽明、船橋兩孝子傳本中共計四十五個條目中的序號和孝子名稱^③）：

休屠胡
甘泉（金日磾）
□句（趙苟）
孝孫
孝孫父（6原合）
魏昌
魏昌父（7魏陽）
（北 壁）



圖一 中室西、北壁“歷史人物、燕居”摹寫圖

趙荀

原谷 6（以上爲第二石）

可以看出，該墓的孝子傳圖和武梁祠所刻相吻合（唯有舜圖武梁祠是在帝王圖內）。最近有人針對漢代武氏祠畫像石提出偽刻一說，而該墓恰恰爲武梁祠實爲真品提供了很多確鑿的證據，堪稱第一級的史料^⑦。

該墓中室西壁第五層繪有男性墓主（圖版貳四、62、71）、北壁第五層繪有女性墓主（圖版貳四、61、68）的圖像。由於男性墓主曾被舉爲孝廉（圖版貳一、19、30），因此意在展示此男性墓主是該墓西、北壁第一層所繪一系列的孝子的末尾一個，同時，也展示了這位男性墓主也是第二層所繪孔子弟子裡位居末端的一位儒生。由此類推，女性墓主也同樣擁有占第三、四層所繪衆多列女傳圖中末尾一席的資格。

該墓中室西、北壁第二層繪有孔子弟子圖（圖版壹二、1-13），孔子的弟子一般認爲有七十二人（孔子家語九、七十二弟子解三十八），而該墓的孔子弟子圖爲三十餘人，並且多數伴有榜題，這些榜題無一不是極其珍貴的資料，現將它轉爲從右往左的順序排列如下：

老子
項橐
孔子
顏淵
子張
子貢
子路
子游
子夏
閔子騫
曾子
□有^⑧（以上爲西壁）
仲弓
曾賜^⑨
公孫□^⑩
冉伯牛
宰我
□（以上爲北壁）

罕見的是老子和孔子像中間畫上了童子模樣的項橐，項橐七歲成爲孔子的老師（戰國策、秦策等），也以敦煌本孔子項託相問書的主人公著稱（《敦煌變文集》上集、卷三所

收），該墓的項橐像很可能是可以從榜題加以辨認的最遠古資料。此外，值得注目的是孔子和子路等圖較大且有特徵，尤其是子路圖像，使人聯想起東漢武氏祠畫像石前石室第二石第二層的子路圖像。有關孔子弟子圖的粉本，自古史記仲尼弟子列傳裡有如下記載：

弟子籍出孔氏古文、近是

而漢書藝文志裡載有

孔子徒人圖法二卷

等文字。至於和這些傳本彼此有何關連，還有待做進一步的研究。

二

該墓中室的故事圖中，最具規模的莫過於西、北壁的第三、四層以及南壁所繪列女傳圖。這些列女傳圖在整個壁畫墓裡也是獨具特色的（圖版壹三、1-27）。其規模之大顯而易見地表現在它占據了中室西、北壁的兩層牆面，並且跨西、北、南三面牆壁，這同時意味著列女傳圖之豐富多彩的特性。該墓列女傳圖共四十三幅，其多姿多彩，自成一體的風格是漢代列女傳圖中未曾有過的^⑪（後述著名武梁祠裡僅存八幅）。由此可見，該墓的列女傳圖作爲唯一將漢代列女傳圖系統地傳承於今世的遺物，有著它不可估量的一級學術資料性價值。

該墓的列女傳圖如同孝子傳圖一樣，幾乎都伴有榜題。首先，中室西、北壁第三、四層榜題是這樣排列的：

(西 壁)		(北 壁)	
楚子發母	秦穆姬	代趙夫人	蓋將之妻
魯季敬姜		楚昭越姬	魯孝義保
齊女傅母	齊桓衛姬		梁節姑姊
衛姑定姜		魯之母師	
武王母大妣	鄒孟軻母	楚昭貞姜	
文王母大任			
王季母大姜			
契母簡狄			
后稷母姜原			

從排列上具有很大一致性來看，可以說該墓的列女傳圖是根據西漢劉向的列女傳繪製而成的，表二顯示了西、北壁第三、四層的列女傳圖和列女傳的對應關係⑨（榜題下方標注了列女傳的卷號、故事序號和標題，並且標有各圖像的序號）：

列女傳									
(三層)					(四層)				
(西壁) 1 后稷母姜原 卷一・2 棄母姜嫄 2 契母簡狄 3 契母簡狄 3 契母簡狄 (4 啓母塗山) 4 契母簡狄 (5 湯妃有娀) 5 王季母大姜 6 周室三母 6 文王母大任 6 (6 周室三母) 7 齊女傅母 8 齊女傅母 8 魯季敬姜 9 魯季敬姜 9 楚子發母 10 楚子發母 10 鄒孟軻母 11 鄒孟軻母					(北壁) 1 周室姜(后) 2 齊桓衛姬 3 晉文齊姜 (3 晉文齊姜) 4 秦穆公姬 5 秦穆公姬 6 秦穆公姬 7 秦穆公姬 8 秦穆公姬 9 秦穆公姬 10 秦穆公姬 11 秦穆公姬 12 秦穆公姬 13 秦穆公姬 14 秦穆公姬 15 秦穆公姬 16 秦穆公姬 17 秦穆公姬 18 秦穆公姬				
(東壁) 1 魯師春姜 2 魏芒慈母 3 齊田稷母 4 魯之母師 5 鄒孟軻母 6 鄒孟軻母 7 鄒孟軻母 8 鄒孟軻母 9 鄒孟軻母 10 鄒孟軻母 11 鄒孟軻母 12 鄒孟軻母 13 鄒孟軻母 14 鄒孟軻母 15 鄒孟軻母 16 鄒孟軻母 17 鄒孟軻母 18 鄒孟軻母					(南壁) 1 周室姜(后) 2 齊桓衛姬 3 晉文齊姜 (3 晉文齊姜) 4 秦穆公姬 5 秦穆公姬 6 秦穆公姬 7 秦穆公姬 8 秦穆公姬 9 秦穆公姬 10 秦穆公姬 11 秦穆公姬 12 秦穆公姬 13 秦穆公姬 14 秦穆公姬 15 秦穆公姬 16 秦穆公姬 17 秦穆公姬 18 秦穆公姬				

表二 和林格爾東漢壁畫列女傳圖與列女傳

從表二所示列女傳圖和列女傳卷號、故事序號的對應關係可以看出：中室西、北壁的列女傳圖也是從西壁第三層的左側開始的，這與該墓的孝子傳圖是一致的。此外，第一幅圖1始於列女傳卷一·2，以下往右順次為列女傳卷一·2、3、6、15（11開始為北壁圖像）。也就是說，該墓的列女傳圖忠實地沿襲了列女傳的排列順序^⑩。由此可以推斷出，第3、4幅當初就已破損的圖像根據列女傳的前後順序，3應為啓母塗山圖（卷一·3），4應為湯妃有藝圖（卷一·4）。尤其對於列女傳卷一的母儀傳，只要看一下表二就能夠知道，該墓的西、北壁的列女傳圖有意涵蓋卷一所收的所有十五篇故事（卷一的舜除外），這是頗為顯而易見的事實。同樣，對於圖15和圖17也可推斷出15為周室姜后圖（卷二·1），17為晉文齊姜圖（卷二·3）。只是，對於西壁第四層的圖21、22為何人圖像尚不明確。圖30（北壁）從右邊圖31的梁節姑姊圖的失火場面看，應為宋恭伯姬圖

卷一 賢明傳	卷一 母儀傳(2)
卷五 節義傳(1)	卷四 貞順傳
	卷三 仁智傳
	卷一 母儀傳(1)
卷五 節義傳(2)	

義婦
 37 魯漆室女
 38 (列女 a)
 39 (列女 b)
 40 (列女 c)
 41 (列女 d)
 42 (列女 e)
 43 劓鼻 (刑身)
 一往不改
 行處梁 (高)
 卷四・14 梁寡高行
 卷三・13 魯漆室女

19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	37
卷五・9 魯秋潔婦				卷三・3 許穆夫人						
列女傳	9	10 周主忠妾			4 曹釐氏妻	5 孫叔敖母	9 魯臧孫母	10 晉羊叔姬	11 晉范氏母	13 魯漆室女

首先關於南壁開頭所繪圖36

卷五·6 魯義姑姊

在繪製此圖36之前，北壁第四層繪製了圖34、35，分別為

卷五·5 蓋將之妻

卷五·7 代趙夫人

不難想像，作者在此有意省略了圖6，取而代之以圖7，而把圖6搬到了南壁開頭。究其原因，便會發現這是由於36的魯義姑姊圖包括兩名騎士、一名孩童和魯義姑姊共計四人的圖像內容，篇幅長、容量大，而北壁右端已經沒有相應的空間。事實上圖36的魯義姑姊圖也是該墓列女傳圖中所占畫面最大的一幅。此後的圖37

卷三·13 魯漆室女

本應緊接在圖27、28即

卷三·10 晉羊叔姬

卷三·11 晉范氏母

之後，但由於西壁到此終結，沒有將卷三繪完的餘地，北壁又企圖從卷四的貞順傳開始，因其開頭圖像為29

卷四·10 楚昭貞姜

於是魯漆室女圖就被挪到了南壁的第二幅即37的位置。另外，第三幅圖43即

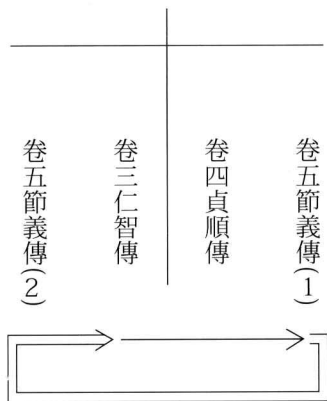
卷四·14 梁寡高行

是該墓列女傳圖的善終之作，要想解明它的位置，當然需要以解明此前五幅圖（列女aie）的內容為前提^①，這有待今後的進一步檢證。總之，圖43應為介於圖29、30即

卷四·10 楚昭貞姜

卷四·2 宋恭伯姬

之間的圖像。而從前面所提及的圖29、30、31以水火為主題被集中描繪在了北壁左側這一角度來考慮的話，它無疑是作為具有另一主題的圖像被移到了南壁。在此，不妨回想一下先前的示意圖和西、北壁第四層列女傳圖的佈局：



南壁第一層列女傳圖的佈局也是從卷五節義傳(36)開始的，之後以卷三仁智傳(37)、卷四貞順傳(43)的順序依次展開，與西、北壁第四層的佈局遙相呼應。由此可見，南壁的列女傳圖並非西、北壁第四層的單純延續，而是來自列女傳圖粉本中對於西、北、南三面牆壁的設定，可以推定它的構成是與西、北壁第四層的諸圖像呈複雜對應關係的。

有關劉向作列女傳，漢書三十六卷元王傳六裡有這樣的記載：

向睹俗彌奢淫而趙衛之屬起微賤踰禮制。向以為王教由內及外、自近者始。故採取詩書所載賢妃貞婦興國顯家可法則及孽嬖亂亡者，序次為列女傳，凡八篇，以戒天子。值得注意的是這裡所提列女傳和圖像的關係。漢書藝文志裡記載：

劉向所序六十七篇（新序、說苑、世說、列女傳頌圖也）。

而劉向的七略別錄（初學記二十五屏風三所引）裡也有

臣向與黃門侍郎網所校列女傳、種類相從為七篇、以著禍福榮辱之效是非得失之分、畫之於屏風四堵

的記述，由此可見早在劉向在世時，業已有人畫了列女傳圖，遺憾的是沒有傳存至今，無從了解其內容。此前我們僅僅可以透過東漢武氏祠畫像石領略漢代列女傳圖的風采，武梁祠第二、三石的第三層，井然有序地排列著八幅列女傳圖，在此將其列女名列舉如下（附序號，下方併記列女傳的卷號，故事序號和標題）：

(二層)

(列女傳)

- | | |
|----------------|------------|
| 1 梁高行 | 卷四·14 梁寡高行 |
| 2 魯秋胡妻 | 卷五·9 魯秋潔婦 |
| 3 魯義姑姊 | 6 魯義姑姊 |
| 4 楚昭貞姜(以上為第三石) | 卷四·10 楚昭貞姜 |
| 5 梁節姑姊(第三、二石) | 卷五·12 梁節姑姊 |
| 6 齊繼母 | 8 齊義繼母 |
| 7 京師節女(以上為第二石) | 15 京師節女 |
| 8 鍾離春(第二石第三層) | 卷六·10 齊鍾離春 |

此外，1 梁高行圖也被繪進武氏祠左右室第八石的第三層，2 魯秋胡妻圖於前石室第九石第二層、3 魯義姑姊圖於前石室第七石第一層、8 鍾離春圖於前石室第八石第二層都可得到確認。武梁祠的這些畫像，頗具體系地展現了漢代列女傳圖的風采，成為不可多得的珍貴遺物。與之相比，和林格爾東漢壁畫更是擁有四十三幅列女傳圖，占列女傳全書一百零五篇故事的約四成，毋庸置疑，它已凌駕於武梁祠之上，成為更為重要的漢代列女傳圖資料。並且，該墓的列女傳圖從文獻學的角度上對於今本列女傳的文本也提供了頗多有益的參考。

中室南壁第一、二層繪有列女圖（圖版壹四、1-8，圖版貳四、55），目前能够

確認的榜題，改為從右及左的排列順序依次為：

- 1 晏子
- 田開疆^⑧
- 古冶子
- 公孫接（以上為第一層）
- 2 成慶
- 3 孟賁
- 4 王慶忌
- 要離^⑨
- 5 五子胥（以上為第二層）

首先該墓南壁右側繪有一系列被稱做列士圖的圖像，而武梁祠也刻有類似的畫像，為以下八幅：

- 曹沫、專諸、荊軻（以上為第一石）；蘭相如、范且（以上為第三石）；王慶忌、予讓、聶政（以上為第二石）

在對武梁祠圖像的解讀上，取得了劃時代成果的長廣敏雄氏在其編著的《武梁石室畫像的圖像學解說》中，稱上述八幅圖為「刺客傳圖」^⑫。幾乎所有八幅圖的原故事史記裡都有記載，且與刺客列傳有很大關連，因而「刺客傳圖」的稱呼並沒有明顯脫離八幅圖的內容，只是上述八幅圖中的蘭相如和范且等圖像顯然與刺客毫無關係^⑬。故而將該墓南壁的1晏子以下以及3孟賁等圖視為刺客傳圖難免失之偏頗。幸運的是雖已散佚，但被視為列女傳作者劉向所著

列士傳二卷 劉向撰（隨書經籍志）

劉向列士傳二卷（新唐書藝文志）

等有關列士傳的著作可以作參考，因而在此援用了列士傳圖這一名稱。

該墓南壁的

1 晏子、田開疆、古冶子、公孫接四人的圖像描繪的是所謂二桃殺三士的故事。原故事可以在晏子春秋二·內篇諫下二·二十四中看到。至於二桃殺三士圖除了東漢武氏祠畫像石左右室第七石第二層有其畫像外，嘉祥縣甸子畫像石第二層、宋山一號墓第三石第三層等也有所刻。

2 成慶圖裡的成慶有的記載為成荊，是一名勇士，淮南子齊俗訓裡有「孟賁、成荊」、史記范且列傳裡有「成荊、孟賁、王慶忌、夏育之勇焉而死」等記載，可見是一名與孟賁、王慶忌齊名的勇士。有關其圖像漢書五十三景十三王傳的廣川惠王越傳中有

其殿門有成慶畫、短衣大袴長劍

這樣有趣的記載。

3 孟賁圖，尸子（史記袁盎列傳、索隱所引）裡有以下記載：「孟賁、水行不避蛟龍、

陸行不避兕虎」，可見孟賁也是一名勇士的形象。此圖在沂南漢墓中室北壁東第一層中也可見到（榜題「孟犇」）。

4 王慶忌，要離圖描繪的是要離企圖將吳王僚之子慶忌刺殺的故事。原故事出自呂氏春秋十一忠廉等，以武梁祠第二石所刻畫像而著稱於世。

5 五子胥圖描繪楚人伍子胥的故事，因史記伍子胥列傳而馳名天下。可以作為參考的漢代伍子胥圖另有柏氏伍子胥鏡（上海博物館藏）^⑭（榜題「忠臣伍子胥」）等。

關於列士傳圖，尚有很多不明之處，期待今後的進一步考證。此外，中室的故事圖還有西壁左側所繪七女為父報仇圖（圖版貳四、63、榜題「七女為父報仇」）。這些圖像跟在孝子傳圖之後，應當同時給予解明，但由於出典不詳，也將成為今後的考察對象。

付記

本書為二〇〇八年度日本科學研究費補助金基盤研究（B）交付項目的成果報告書，由中國內蒙古自治區文物考古研究所（副所長：陳永志）和日本幼學會（代表：黑田彰）共同研究刊行。

- ① 內蒙古自治區博物館文物工作隊《和林格爾漢墓壁畫》（文物出版社，一九七八年）。版：內蒙古自治區文物考古研究所《和林格爾漢墓壁畫》（文物出版社，二〇〇七年）。
- ② 圖一出自註①前揭書中的「壁畫摹本」138、139頁（再版140、141頁）。
- ③ 幼學會著《孝子傳註解》（東京・汲古書院，二〇〇三年）中收錄了影印、翻刻、註解各項。孝子傳為僅在日本傳承的兩種完本古孝子傳陽明本和船橋本。有關兩孝子傳，參照黑田彰著《孝子傳的研究》（佛教大學鷹陵文化叢書5，京都・思文閣出版，二〇〇一年）1—2。
- ④ 有關該墓孝子傳圖的各圖像內容，參照黑田彰著《孝子傳圖的研究》（東京・汲古書院，二〇〇七年）1—2。
- ⑤ 參照黑田彰著註④前揭書1—2、3。
- ⑥ 東漢武氏祠畫像石除武梁祠以外，還可見到以下孝子傳圖：
 - ・前石室第七石第一層從右開始。以下相同
 - ・閔子騫33
 - ・刑渠（「孝子刑□」「刑渠」）3
 - ・同上石第二層
 - ・伯瑜（「伯游也」「伯游母」）4
 - ・老萊子（「老萊子」「萊子父母」）13
 - ・前石室第十一石第三層
 - ・刑渠3
 - ・丁蘭9
 - ・左右室第七石第一層
 - ・舜、伯奇138
 - ・左右室第八石第一層
 - ・丁蘭9
 - ・刑渠3
 - ・後石室第八石第一層
 - ・閔子騫33
- ⑦ 參照黑田彰著註④前揭書1—2、1付。並參照白謙慎氏著《黃易和他的友人們留下的知性遺產——對Recarving China's Past所提諸問題的「反論」》（黑田彰子等譯《海外的幼學研究》1，京都・幼學會，二〇〇八年三月）
- ⑧ 關於該墓列女傳圖的各傳圖像內容，參照黑田彰著《列女傳圖的研究——和林格爾東壁畫墓的列女傳圖》（《京都語文》15，京都・佛教大學國語國文學會，二〇〇八年十一月）
- ⑨ 有關列女傳的卷號、故事序號、標題，依據山崎純一氏著《列女傳》上・中・下（新編漢文選，東京・明治書院，一九九六—一九九七年）。
- ⑩ 對於該墓列女傳圖的這一事實，佐原康夫氏在其著書《漢代祠堂畫像考》（《東方學報京都》63，京都・京都大學人文科學研究所，一九九一年三月）中做過指摘。
- ⑪ 從表二可以看到，列女傳卷四貞順傳的圖像極少（僅有卷四・2、10〈29、30〉兩幅圖），由此推測圖38—42列女a—e或許可以想定為卷四・2—9等的圖像。例如，文物出版社版《壁畫情況一覽表》中南壁的列女傳圖榜題條目中有
 - 夫人
 - 之妻兩個著錄，這些可以看做是卷四貞順傳裡的
 - 3 衛寡夫人
 - 4 蔡人之妻
 - 5 黎莊夫人再者，圖22從殘畫上估測可能為
- ⑫ 長廣敏雄氏編《漢代畫像的研究》（東京・中央公論美術出版，一九六五年）第二部「武梁石室畫像的圖像學解說」
- ⑬ 繼承了視武梁祠的一系列圖像為「刺客」圖的論說有：近時的巫鴻（Wu Hung）氏著“The Wu Liang Shrine: The Ideology of Early Chinese Pictorial Art”（Stanford University Press, Stanford, California, 1989, 中文版《武梁祠——中國古代畫像藝術的思想性》〈柳揚、岑河氏譯，三聯書店，二〇〇六年〉）附錄A 310—327頁（中文版、附錄一 318—332頁）。而巫鴻氏將蘭相如和范且二圖從刺客圖移到了Wise Ministers（忠臣）圖（305—310頁〈中文版、313—318頁〉）中。
- ⑭ 參照中國青銅器全集16銅鏡中國美術分類全集，文物出版社，一九九八年圖版八二。
- ⑮ 參照邢義田氏「格套、榜題、文獻與畫像解釋：以一個失傳的『七女為父報仇』漢畫故事為例」（《中世紀以前的地域文化・宗教與藝術》，台北・中央研究院歷史語言研究所，二〇〇二年）。